



『ベーシック生成文法』練習問題

岸本，秀樹

(Citation)

『ベーシック生成文法』練習問題:1-18

(Issue Date)

2025-12-09

(Resource Type)

learning object

(Version)

Not Applicable (or Unknown)

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100498666>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100498666>



December 2025

『ベーシック生成文法』練習問題

岸本 秀樹

Department of Linguistics,
Graduate School of Humanities,
Kobe University

1-1 Rokkodai-cho, Nada-ku, Kobe
657-8501, JAPAN

はしがき

本練習問題集は、2009年に発行された『ベーシック生成文法』（ひつじ書房刊）の理解度をチェックするための練習問題を収録する。『ベーシック生成文法』は生成文法に興味を持った読者に、その基本的な考え方をわかりやすく解説する教科書である。本練習問題は、もともと国語研のプロジェクト「統語・意味解析コーパスの開発と言語研究」（2016～2021年度、代表者 Prashant Pardeshi）の一部として、当時の大学院生の手を借りて、作られたものであるが、今日まで公開されずにいた。『ベーシック生成文法』には、「考えてみよう」のセクションがあり、生成文法について興味を持った読者が、この課題について考えることによって理解を深めることができるようになっている。しかし、基本的な概念や考え方についての理解度をチェックする練習問題の必要性から、今日この練習問題および模範解答を公開するに至った。

本書の練習問題は、正誤問題と穴埋め問題からなり、『ベーシック生成文法』の各章を読み終えた後に、その用途に応じて使用してもらいたい。読者の方々にはこの練習問題を有効に活用していただければ幸いである。

岸本 秀樹
2025 年 12 月

目次

	はしがき	i
第1章	ことばに対する考え方：科学的な方法とは	1
第2章	ことばの獲得の不思議：合理主義と経験主義	2
第3章	普遍文法って何？	3
第4章	ことばの部品：語彙範疇と機能範疇.....	4
第5章	文法のコア：統語構造.....	5
第6章	構造の一般化：Xバー理論	6
第7章	文の構造を考え直す	7
第8章	意味役割の果たす役割	8
第9章	能動と受動：格というものの存在意義	9
第10章	名詞らしくない名詞：数量詞と代名詞	10
第11章	目に見えない主語：コントロールと上昇	11
第12章	目的語のような主語	12
第13章	主語の本当の出所	13
第14章	動く主要部	14
第15章	文頭に現れる語：Wh 疑問詞と題目の移動	15
模範解答		16

第1章 ことばに対する考え方：科学的な方法とは

問1. 次の文が正しければT、正しくなければFを解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 生成文法では、学校で規範的に教えられる文法を研究対象とする。
- ____ ② 生成文法では、言語は、内的な言語である I-言語と外的な言語である E-言語の 2 つに分類されるが、生成文法理論が説明を目指しているのは I-言語である。
- ____ ③ ヒトの頭の中にある言語の文法規則を説明するには、E-言語をそのままに観察しただけでよい。
- ____ ④ 「ことば」は目に見えないものなので、直感的・感覚的にしか研究することができない。
- ____ ⑤ (データの収集によく用いられる)「内省」とは、対象となる文の容認度を頭の中で判断することである。
- ____ ⑥ 科学的に言語を研究する際には、文の容認性を内省で判断してはいけない。
- ____ ⑦ 非文法的な文も、ヒトの頭の中に内在する言語の文法を調べる上での研究対象となる。

問2. 空所を適切な語で埋めなさい。

私たち人間が自然に身につけて、話したり書いたりする時に何気なく用いる [1] の文法は、学校で学習する規範文法とは異なり、知らず知らずのうちに身につけているものである。このことを可能にする [2] が人に備わっていると仮定し、それがどのようなものであるか説明しようとするのが [3] という理論である。[3] では、言語に 2 つの区別を設定している。それは、私たちが頭の中に備えている [4] と、外界に現れる言語現象の総称である [5] である。頭の中にそなわっている [4] を研究するためには、[5] から本来の研究対象になりうるものを抽出する [6] という作業を行うことが必要である。[3] では、そのようにして集めたサンプルに対し、自分が持つ文法と照らし合わせて容認するかしないか判断する [7] を用いた研究方法が最もよく用いられる。

[1] _____ [2] _____ [3] _____ [4] _____ [5] _____ [6] _____
[7] _____

第2章 ことばの獲得の不思議：合理主義と経験主義

問1. 次の文が正しければT、正しくなければFを解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 経験主義の立場では、言語はすべて経験や学習によって身につけるものであるとされている。
- ____ ② 生成文法が支持する合理主義は、「生得性仮説」に基づく考え方である。
- ____ ③ 獲得のする母語の難易度にかかわらず、子供の言語獲得の過程やスピードはほぼ一定である。
- ____ ④ 人間は言語能力を持っているので、どんな環境に置かれても自然と完全な文法を身につけることができる。
- ____ ⑤ 言語獲得段階の子どもに、間違った文を聞かせてしまうと、間違った文法規則を覚えてしまうので大人は注意するべきである。
- ____ ⑥ ことばの獲得の臨界期までに十分な量の刺激を得ることが出来ない状況を、「刺激の貧困」という。

問2. 空所を適切な語で埋めなさい。

言語獲得について、ことばの基礎になる規則が生まれながらに人間の頭の中に存在しているという考え方を〔1〕と言う。この考え方は〔2〕という立場に基づいている。一方、ことばが学習や経験によって得られるという考え方は、〔3〕という立場に基づいている。生成文法では〔2〕が正しいという立場に立っている。生成文法では、そのような考え方を支持する証拠として、完全な文法を知るには非常に限定的な経験にしか身の回りで触れることができない、いわゆる〔4〕があるにもかかわらず、ことばを完全な形で獲得することなどを挙げている。このような言語獲得に関する問題は〔5〕と呼ばれることがある。

〔1〕 _____ 〔2〕 _____ 〔3〕 _____ 〔4〕 _____ 〔5〕 _____

第3章 普遍文法って何？

問1. 次の文が正しければT、正しくなければFを解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 私たちは、ことばを単なる記憶によって理解しているのではなく、文法規則にしたがって理解している。
- ____ ② 生成文法においては、人間は生まれながらにして頭の中に普遍文法を持っていると考えられている。
- ____ ③ 人間以外にも普遍文法を持っている動物がいることがわかっている。
- ____ ④ 普遍文法は原理と変数から成り、子供が言語を獲得する際には、まわりから受ける言語刺激によって変数部分を決定する。
- ____ ⑥ 人間にしか扱えない言語の特性のことを指して、生成文法では「言語の自律性」があると言う。
- ____ ⑦ 日本語の疑問文で「何を」や「誰を」は文頭にも文中にも現れることができるので、日本語は Wh 移動がある言語だと言える。

問2. 空所を適切な語で埋めなさい。

言語の生得性仮説において生まれながらに人間の頭の中にあるとされる初期状態の文法のことを〔1〕という。〔1〕は、どの言語でも共通する〔2〕と、言語によって異なる〔3〕で構成されている。周囲からの刺激により〔3〕が定められることで、英語や日本語などの個別の文法を獲得できるのである。例えば、〔3〕について、英語と日本語で語順が異なることから示される変数を〔4〕と言う。さらに、英語が必ず主語を表出する必要があるのに対し、日本語は必ずしも表出する必要がないことから示される変数を〔5〕と言う。

生成文法では、言語能力は人間の他の認知能力とは異なる独立した能力だとする見方があり、この考え方のことを〔6〕と呼ぶ。

〔1〕 _____ 〔2〕 _____ 〔3〕 _____ 〔4〕 _____ 〔5〕 _____ 〔6〕 _____

第4章 ことばの部品：語彙範疇と機能範疇

問1. 次の文が正しければT、正しくなければFを解答欄に記入しなさい。

- ___ ① ことばは、実質的な意味を表す「語彙範疇」と、文中での関係を示す「機能範疇」とに分類される。
- ___ ② 語彙範疇・機能範疇に属する語の種類は、言語や研究者によって分類が異なる。
- ___ ③ 語彙範疇に分類される語は、意味が明確に規定されるので、すべて辞書に記載されている。
- ___ ④ 語のクラス进行分类する際、形態的尺度では語の活用から判断し、分布的尺度では語の派生から判断する。
- ___ ⑤ 機能範疇に属する語は、具体的な意味を持たないので、文を構築する際にはあまり重要な役割を担わない。
- ___ ⑥ 語彙範疇として働いていた語が、機能範疇として用いられるようになるプロセスを「文法化」と言う。

問2. 空所を適切な語で埋めなさい。

語と語を組み合わせて文をつくること、あるいは、規則によって文を作り出す方法を総称して「[1]」と言う。「[1]」の観点から語进行分类する際、名詞、動詞、形容詞などのクラスは「[2]」範疇に、前置詞（後置詞）、助動詞、代名詞といったクラスは「[3]」範疇に属する。

語がどのクラスに属するか判断するために用いる方法には、いくつかのものがある。その一つとして、文の特定の位置に語が現れることができるかによって判断する「[4]」的尺度がある。もう一つは、動詞 **walk** が過去形で **walked** になる「[5]」や、形容詞 **kind** に接辞 **-ness** がついて名詞 **kindness** になる「[6]」といった品詞に特有の形の変化から判断する「[7]」的尺度である。

[1] _____ [2] _____ [3] _____ [4] _____ [5] _____ [6] _____
[7] _____

第5章 文法の核心：統語構造

問1. 次の文が正しいければT、正しくなければFを解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 自然言語に現れる統語構造を調べていくことで、目に見えない普遍文法がどのようなものかを考えることができる。
- ____ ② 構成素とは、複数の語がまとまってできる単位のことである。
- ____ ③ 構成素をなしていない語の連なりで、「移動」や「置き換え」の操作はできない。
- ____ ④ 樹形図における XP (X は任意の範疇ラベル) は、その単位に語が2つ以上含まれることを示している。
- ____ ⑤ 樹形図の中で用いられるΔの記号は、「それ以上の分析が不可能だ」ということを表している。
- ____ ⑥ 文の構造を分析するためのテストは、あらゆる言語に対して使用できるものでなくてはならない。

問2. 空所を適切な語で埋めなさい。

統語分析においては、文中のどの要素が〔1〕と呼ばれるまとまり（まとまった単位）を形成するかを知るのが重要である。〔1〕は文中で元々現れる位置から別の位置に動かすという〔2〕の操作を適用することができる。また、置き換えの操作もできる単位でもある。したがって、〔1〕が名詞句であれば「それ」等の代名詞で置き換えられたりすることができる性質を持っている。これらの操作を用いた分析をするにあたって、〔3〕によって統語構造を図示することが多い。

〔4〕を図示する際には、形容詞にはA、名詞句にはNPといったように、語や句がつながった〔4〕に対してそれぞれの働きをあらわす〔5〕をつける。〔4〕を見ると、日英語の文の統語構造については、〔6〕を除くと大きな違いがないことが分かる。

〔1〕 ____ 〔2〕 ____ 〔3〕 ____ 〔4〕 ____ 〔5〕 ____ 〔6〕 ____

第6章 構造の一般化：Xバー理論

問1. 次の文が正しいければT、正しくなければFを解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 語順の鏡像関係は、日英語の間においてだけ観察される現象である。
- ____ ② 句の主要部の性質が句全体の性質に反映されることを「投射する」と言う。
- ____ ③ 置き換え等のテストをすると、名詞句は平板の構造をもつことがわかる。
- ____ ④ 名詞句の中の「の」でマークされる修飾要素の名詞は、すべて「と」で等位接続することができる。
- ____ ⑤ 中間投射のX'が繰り返せる回数には限界がある。
- ____ ⑥ 個別言語ごとに、すべての句にあてはまる基本的な句構造の形式がある。
- ____ ⑦ 日英語の語順の鏡像関係は、両言語の句構造において主要部と補部の語順が逆であることに起因する。

問2. 空所を適切な語で埋めなさい。

句は、主要部が〔1〕することによって作られ、〔2〕構造を持つ。生成文法では、句の構造を一般化して表示する理論を〔3〕と呼ぶ。主要部の内容を補足する要素が入る位置を〔4〕と言う。また、主要部が名詞の場合に決定詞などが入る位置を〔5〕と言う。さらに、主要部を修飾する語が入る位置を〔6〕呼ぶ。英語と日本語の語順に〔7〕関係が見られるのは、語順が普遍文法で仮定している〔8〕を設定することによって決められるからである。個別言語の文法が簡単な〔8〕により決められるということが、子どもが短期間でスムーズに言語獲得できる理由であると考えられている。

〔1〕 _____ 〔2〕 _____ 〔3〕 _____ 〔4〕 _____ 〔5〕 _____
〔6〕 _____ 〔7〕 _____ 〔8〕 _____

第7章 文の構造を考え直す

問 1. 次の文が正しいければ T、正しくなければ F を解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 句は主要部が投射して作られるという原則を投射の原理という。
- ____ ② 文の構造を分析する樹形図では、二股分かれの構造が重層的に重なる構造がつくられる。
- ____ ③ 普遍的な真理を述べる文には、時制要素は現れることができない。
- ____ ④ 補文標識が現れうる構造位置は、すべての文に存在する。
- ____ ⑤ 英語の疑問文は、構造上で主語と助動詞の位置が入れ替わることによって疑問の意味が表される。
- ____ ⑥ 英語の疑問文における補文標識の出現と主語・助動詞の倒置のように、両立することができずどちらか一方しか可能でない場合に、2つの現象は相補分布にあると言う。

問 2. 空所を適切な語で埋めなさい。

生成文法では、句構造について二つの原則があると考えられている。一つは〔1〕と呼ばれる、句は主要部が投射して作られるという原則であり、もう一つは、句が階層構造を持ち、構成素は常に〔2〕になるという原理である。文は句とは違うレベルのものであるが、文は〔3〕が投射してつくられると考えることによって、Xバー理論を文にも当てはめることができる。また、節の埋め込みを示すマーカーである〔4〕が現れる位置が文の上部にあり、この〔4〕が投射すると、文の構造が完結することになる。英語で、疑問文を作るときの適用される操作である〔5〕は〔4〕が存在する時には適用されない。

〔5〕と〔4〕が同時に起こることがない場合、両者は〔6〕の関係にあると言われる。

〔1〕 _____ 〔2〕 _____ 〔3〕 _____ 〔4〕 _____ 〔5〕 _____ 〔6〕 _____

第8章 意味役割の果たす役割

問 1. 次の文が正しいければ T、正しくなければ F を解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 「X が Y をほめた」という他動詞文の構造は、「ほめた」が他動詞であることから決定されており、X,Y は任意の名詞と置き換えると文法的な文が出来る。
- ____ ② 動詞は項構造を持ち、項構造が指定する意味役割が名詞句の種類を制限する。
- ____ ③ 動詞の項構造が〈動作主、主題〉である場合は、常に、主語に動作主、目的語に主題の意味役割が与えられる。
- ____ ④ 「 θ 基準」とは、文中の名詞句が指定される意味役割は名詞句一つに対して一つに限られるという制限のことを指す。
- ____ ⑤ 文の意味から主語が「動作主」であり「経験者」と認められるとき、二つの意味役割が同時に与えられる。
- ____ ⑥ 意味役割が与えられる名詞句は文に不可欠な主語や目的語の要素であり、付加詞扱いの要素には意味役割は与えられない。

問 2. 空所を適切な語で埋めなさい。

[1] は、動詞によって指定され、名詞句が文中で果たす役割を指定するものである。生成文法では、どのような [1] を名詞句に対して振り分けるかを示す [2] を動詞が持つと考えることによって、どのような名詞句が文中に現れることができるかを説明している。

[1] にはいくつかの種類があると考えられている。その中には、意図的な動作の主体を表す [3]、何かを認識する主体を意味する [4]、動作が向けられる対象を指す

[5]、出来事や行為が起こる位置を指す [6]、移動の出発点を指す [7] とその到達点を指す [8]、行為を行う際に用いるものを指す [9] などがある。これらについて、例えば [3] は [5] よりも優先的に主語に与えられるという序列や、名詞句一つに対して必ず一つの [1] が与えられなければならないという [10] は、各言語に共通して見られる現象である。

[1] _____ [2] _____ [3] _____ [4] _____ [5] _____
[6] _____ [7] _____ [8] _____ [9] _____ [10] _____

第9章 能動と受動：格というものの存在意義

問1. 次の文が正しいければT、正しくなければFを解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 意味役割は、必ずしも動詞などの述語から名詞に与えられるわけではない。
- ____ ② 生成文法では、受動文の主語は本来その名詞句があるべき別の位置から主語位置に移動してくるものであると考えている。
- ____ ③ 名詞句は格が与えられることによって、統語的に認可されて適切に解釈される。
- ____ ④ 意味役割付与の均一性仮説に従うと、主語語位置に現れる名詞句には必ず動作主の意味役割が与えられる。
- ____ ⑤ John broke the vase into pieces. のような「(主語)+(動詞句)+(目的語)+(副次的な述語)」という語順の文は全て結果構文と呼ばれる。
- ____ ⑥ 結果述語が意味的に叙述できるのは直接目的語に限られるが、表面上で直接目的語ではなくても結果状態を記述できるものもある。

問2. 空所を適切な語で埋めなさい。

受動文は能動文と同じ〔1〕を表すもので、能動文と基本的に同じ構造から派生して作られると生成文法では考えられている。能動文の他動詞句は目的語に〔2〕を与える能力を持っているが、受動文になるとそれが失われるので、時制から〔3〕を付与されるために目的語位置にあった名詞句が主語位置への〔4〕を起こすと考えられている。生成文法において、このような〔4〕の分析をするのは、受動文の主語が、能動文の目的語と同じ意味役割をもっているため、元々目的語位置にあったとすることができるという〔5〕の考え方に動機づけられている。

英語には、John broke the vase into pieces. における "into pieces" のような、他動詞文に〔6〕述語と呼ばれる副次的な述語を伴わせた〔6〕構文がある。しかし、〔6〕述語には意味的に叙述できる対象が〔7〕に限られるという制約がある。例外として、受動文の主語は〔6〕述語による叙述が可能である。この事実は、受動文の主語は元々目的語位置から移動したものであるとことを裏付ける経験的な証拠となる。

〔1〕 _____ 〔2〕 _____ 〔3〕 _____ 〔4〕 _____ 〔5〕 _____
〔6〕 _____ 〔7〕 _____

第10章 名詞らしくない名詞：数量詞と代名詞

問1. 次の文が正しいければT、正しくなければFを解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 生成文法においては、英語の一文の中に複数の数量詞が含まれる場合、右側にあるものほど作用域が広くなると考えられている。
- ____ ② 生成文法では、数量詞の上昇によって、数量詞の解釈に曖昧性が生まれると考えている。
- ____ ③ 日英語ともに、代名詞類は同一節内の上位にある名詞句と同じものを指すことができない。
- ____ ④ 日英語ともに、照応詞は同一節内に先行詞となるものがなくてはいけない。
- ____ ⑤ 移動が起こる前のD-構造の語順は、すべてS-構造での語順と異なる。
- ____ ⑥ 英語の論理構造での数量詞移動は、S-構造だけでは読み取れない解釈を説明するために仮定されている目に見えない移動である。

問2. 空所を適切な語で埋めなさい。

数や量を指定する通常の名詞とは異なる〔1〕と呼ばれる名詞がある。〔1〕は一文の中に〔1〕が二回以上現れると、複数の解釈が得られる場合がある。これは〔1〕が〔2〕を持つために起きる現象である。

代名詞には、〔3〕と〔4〕の二種類がある。同一節内の名詞句を先行詞にとらなければいけないのが〔3〕であり、同一節内の名詞句を先行詞にとることができないのが〔4〕である。このような、代名詞がどのような先行詞をとりうるかについての理論は〔5〕と呼ばれる。

「原理と変数」の考え方を仮定している生成文法では、数段階の文法のレベルが存在すると考えられている。レキシコンから取り出された語の組み合わせである〔6〕構造から、移動が行われることによって〔7〕構造が派生される。〔7〕構造から、実際の発音に近い形である〔8〕構造や意味解釈が適切に行われる〔9〕構造が作られる。この文法構成モデルは〔10〕モデルと呼ばれる。

〔1〕 _____ 〔2〕 _____ 〔3〕 _____ 〔4〕 _____ 〔5〕 _____
〔6〕 _____ 〔7〕 _____ 〔8〕 _____ 〔9〕 _____ 〔10〕 _____

第 11 章 目に見えない主語：コントロールと上昇

問 1. 次の文が正しいければ T、正しくなければ F を解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 生成文法においては、文の統語構造は表面上の語の並びだけで判断するのが確実であると考えられている。
- ____ ② 上昇構文は、無生物主語をとることができない。
- ____ ③ コントロール構文では、主節の主語と埋め込み節の主語は同一指示をもつが、意味役割は異なる動詞から与えられる。
- ____ ④ 「遊び出す」のような統語的複合動詞構文が上昇とコントロールのどちらのタイプであるかは、後部動詞の性質によって決まる。
- ____ ⑤ 日本語の複合動詞の上昇とコントロールの構造は、統語的な複合動詞だけでなく語彙的な複合動詞にも見られる。
- ____ ⑥ コントロール動詞に文イディオムを埋め込むと、イディオムの隣接性の条件を満たさなくなりイディオムの解釈ができなくなる。

問 2. 空所を適切な語で埋めなさい。

英語の to-不定詞を含む文には 2 種類ある。1 つ目は、to-不定詞節内にある意味上の主語を主節の主語位置に移動させる [1] 構文がある。2 つ目は、to-不定詞節の発音されない意味上の主語である [2] を主節の主語が [3] する [3] 構文がある。これらの構文は、語の並びをただけでは同じ構造をしているように見える。しかし、to-不定詞節を that 節に置き換える操作や、主節の主語を it や there に置き換えるような操作は [1] 構文にしか適用できないことなど、様々な面で振る舞いの違いがある。

日本語の複合動詞について見てみると、文イディオムに「忘れる」を付加させている構文である複合動詞構文の「*閑古鳥が鳴き忘れる」にはイディオムの解釈が許されない。これは、「鳴き忘れる」の複合動詞構文が [3] 構文であり、「閑古鳥」は主節に現れ、埋め込まれた節には発音されない代名詞の PRO が現れるので、文イディオムの [4] が満たされなくなるからである。

[1] _____ [2] _____ [3] _____ [4] _____

第 12 章 目的語のような主語

問 1. 次の文が正しいければ T、正しくなければ F を解答欄に記入しなさい。

- ____ ① The vase broke into pieces. のような文は直接目的語の制約が破られているようにみえるが、結果述語が主語を修飾する位置に移動するので結果の意味で解釈できる。
- ____ ② 非能格動詞の持つ項は、主語としての性質しか持っていない。
- ____ ③ 非対格動詞文は目的語を持っている。
- ____ ④ 英語の非能格動詞は、「There+ (一般動詞を主要部とする動詞句) + (主語)」というような There 構文を形成できない。
- ____ ⑤ 日本語において、主語が数量副詞によって修飾できるならば、その主語は「主題」の意味役割を持ち、目的語位置から移動してきたものだと言える。
- ____ ⑥ 非対格動詞の主語は、格と意味役割を一つの動詞から同時に与えられる。

問 2. 空所を適切な語で埋めなさい。

英語の自動詞文では The vase broke into pieces. のように (9 章で見たような) 結果述語を文末に伴わせると主語が叙述される自動詞と、*John worked tired. のように叙述されない自動詞がある。前者の自動詞を [1] 動詞と呼ぶのに対して、後者を [2] 動詞と呼ぶ。

[1] 動詞は VP の目的語位置にある名詞句に [3] の意味役割を与える。しかし、[1] 動詞は自動詞であるため格を付与できない。したがって、名詞句は時制から [4] を受け取るために主語位置に移動することとなる。[2] 動詞の主語は、最初から主語位置に現れる。これは、[5] の意味役割がこの位置にある名詞句に与えられるからである。自動詞の中に [1] 動詞と [2] 動詞の二種類が存在するという仮説を [6] という。

[1] _____ [2] _____ [3] _____ [4] _____ [5] _____ [6] _____

第 13 章 主語の本当の出所

問 1. 次の文が正しいければ T、正しくなければ F を解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 「動詞句内主語仮説」を支える根拠として、主語が動詞句内で意味役割を与えられると考えることで、意味役割の付与の理論が簡潔になるということが挙げられる。
- ____ ② 意味役割や格の付与は、一つの文全体に対して行われるべきであり、一文の中で部分的に行うことは「局所性」の考え方から非文法的だとみなされる。
- ____ ③ t_{NP} で表されるトレースとは、その位置にあった名詞句が消滅したことを示す痕跡のことである。
- ____ ④ 英語の数量詞遊離は、数量詞を含む目的語から数量詞が外に移動することによって起こる。
- ____ ⑤ 日本語の主語は、「が」でマークされるものをすべて「で」に置き換えることができる。
- ____ ⑥ 「ばかり」を用いたテストでは、どのような要素が動詞句内にあるかを調べることができる。
- ____ ⑦ 道具格主語は TP の主語位置には移動しないが、動作主の意味役割は受け取っている。

問 2. 空所を適切な語で埋めなさい。

文法操作は「可能な限り構造的に近い位置で行われるべきである」という [1] の考え方がある。従来、必ずしも [1] に従っていなかった意味役割の付与を [1] と整合する形にすることにより、[2] 仮説が生まれた。[2] 仮説を採用することにより、主語の意味が動詞によって決まることを、より [1] 的に捉えられるだけでなく、X バー構造において動詞句の [3] に入る要素がどのようなものであるかという説明することができる。

[2] 仮説では、英語の主語から [4] が遊離される現象に対して原理的な説明することができる。また、日本語では、「今日は子どもたちで遊んだ。」のような [5] 主語の構文の主語は、TP の主語位置ではなく VP の中に留まっており、[2] 仮説は日本語でも有効であることがわかる。

[1] _____ [2] _____ [3] _____ [4] _____ [5] _____

第 14 章 動く主要部

問 1. 次の文が正しいければ T、正しくなければ F を解答欄に記入しなさい。

- ____ ① 英語の主要部移動には V-to-T movement と T-to-C movement の 2 種類が存在する。
- ____ ② VP の主要部にある動詞が移動するかしないかは、その動詞の種類によってではなく構造によってのみ決まる。
- ____ ③ 英語の本動詞は、時制要素と融合するために V-to-T movement を起こして T の位置に上昇する。
- ____ ④ 日本語において、動詞や形容詞は主要部移動を受けないため、動詞・形容詞と時制辞との間に「さえ」などの助詞が介在すると、動詞では「する」、形容詞では「ある」が代動詞として用いられる。
- ____ ⑥ 英語では T-to-C movement が起こると、必ず yes-no 疑問文が形成される。
- ____ ⑦ 疑問文を作る際、T から C に主要部を移動させるという点で日英語は共通している。

問 2. 空所を適切な語で埋めなさい。

生成文法では、ある要素がもともとあるべき位置とは異なる位置に現れると「移動」が起こったと考える。句ではなく、主要部が移動する場合には、[1] が起こったと言う。

[1] のうち、特に、完了の have が否定辞の前に現れるような移動は [2]、Yes/No 疑問文において助動詞要素が主語よりも左側に現れるような移動は [3] と呼ばれる。

英語で、通常の動詞が時制要素と隣接している時、これらの要素は [4] という操作を受けて時制の屈折をもつ動詞がつくられる。しかし、時制要素と動詞が隣接していない場合は [4] の操作が適用できないため、時制を表すための最後の手段として [5] が行われる。日本語でも、[6] などの助詞が動詞のすぐ右側にあると「する」が挿入されるなど、英語との共通点が見られる。

[1] _____ [2] _____ [3] _____ [4] _____ [5] _____
[6] _____

第 15 章 文頭に現れる語：Wh 疑問詞と題目の移動

- ____ ① Wh 句は、記憶できる限り無制限に長距離を一足飛びで移動することができる。
- ____ ② 英語の多重疑問文は、Wh 疑問文の Wh 句が直接文頭に生起するのではないことを示唆している。
- ____ ③ 語や句がある領域から移動することが制限されることがあるが、生成文法においては、この現象を「島 (island) の制約」と言う。
- ____ ④ 日本語の疑問を表す Q 要素とは、「何を」や「誰が」のような表現である。
- ____ ⑤ 日本語では、関係節の中から主節の文頭に題目を移動させても完全に容認される文になる。
- ____ ⑥ 日本語の「だけ」が文頭の題目に作用域が及ばないことから、題目の移動が CP への移動であることがわかる。

問 2. 空所を適切な語で埋めなさい。

英語の Wh 疑問文では、Wh 句がもともとあった位置ではなく文頭の位置に現れる。この場合、Wh 句は [1] という移動操作を受けたとされる。Wh 疑問詞は、自身で意味を特定することが不可能であり、論理学で言う [2] の働きをしているので、このタイプの移動は [2] 移動と呼ばれることもある。[1] は、複数の節をまたいで移動する [3] 移動が可能であるが、一回の操作で移動できる距離には文法的な制限があり、[4] の境界を越えて移動すると非文となる。一方、日本語の Wh 疑問文では [1] が起こらない。日本語では題目を文頭へ移動させることができる。題目の文頭への移動は [2] 移動の一種で、[5] の指定部へ移動すると考えられる。

[1] _____ [2] _____ [3] _____ [4] _____ [5] _____

模範解答

第1章 ことばに対する考え方：科学的な方法とは

問1. ①F ②T ③F ④F ⑤T ⑥F ⑦T

問2. [1] 自然言語 [2] 言語能力 [3] 生成文法 [4] I-言語
[5] E-言語 [6] 理想化 [7] 内省

第2章 ことばの獲得の不思議：合理主義と経験主義

問1. ①T ②T ③T ④F ⑤F ⑥F

問2. [1] 生得性仮説 [2] 合理主義 [3] 経験主義
[4] 刺激の貧困さ [5] プラトンの問題

第3章 普遍文法って何？

問1. ①T ②T ③F ④T ⑤F ⑥F

問2. [1] 普遍文法 [2] 原理 [3] 変数 [4] 主要部の変数
[5] 空主語の変数 [6] 自律性のテーゼ

第4章 ことばの部品：語彙範疇と機能範疇

問1. ①T ②T ③F ④F ⑤F ⑥T

問2. [1] 統語 [2] 語彙 [3] 機能 [4] 分布 [5] 活用
[6] 派生 [7] 形態

第5章 文法のコル心：統語構造

問1. ①T ②T ③T ④F ⑤F ⑥F

問2. [1] 構成素 [2] 移動 [3] 樹形図 [4] 節点 [5] ラベル
[6] 語順

第6章 構造の一般化：Xバー理論

問1. ①F ②T ③F ④F ⑤F ⑥T ⑦T

問2. [1] 投射 [2] 階層 [3] Xバー理論 [4] 補部 [5] 指定部

[6] 付加部 [7] 鏡像 (の) [8] 変数

第7章 文の構造を考え直す

問1. ① F ② T ③ F ④ T ⑤ F ⑥ T

問2 [1] 主要部の原理 [2] 二股分かれ [3] 時制辞
[4] 補文標識 [5] 主語・助動詞の倒置 [6] 相補分布

第8章 意味役割の果たす役割

問1. ① F ② T ③ T ④ T ⑤ F ⑥ F

問2. [1] 意味役割 [2] 項構造 [3] 動作主 [4] 経験者
[5] 主題 [6] 場所 [7] 始点 [8] 着点 [9] 道具
[10] θ -基準

第9章 能動と受動：格というものの存在意義

問1. ① T ② T ③ T ④ F ⑤ F ⑥ T

問2. [1] 論理的な意味 [2] 対格 [3] 主格 [4] 名詞句移動
[5] 意味役割付与の均一性仮説 [6] 結果 [7] 直接目的語

第10章 名詞らしくない名詞：数量詞と代名詞

問1. ① F ② T ③ F ④ F ⑤ F ⑥ T

問2. [1] 数量詞 [2] 作用域 [3] 照応詞 [4] 代名詞類
[5] 束縛理論 [6] D (深層) [7] S (表層) [8] 音韻
[9] 論理 [10] Y (T)

第11章 目に見えない主語：コントロールと上昇

問1. ① F ② F ③ T ④ T ⑤ F ⑥ T

問2. [1] 上昇 [2] PRO [3] コントロール [4] 隣接性の条件

第12章 目的語のような主語

問1. ①F ②T ③F ④T ⑤T ⑥F

問2. [1] 非対格 [2] 非能格 [3] 主題 [4] 主格 [5] 動作主
[6] 非対格仮説

第13章 主語の本当の出所

問1. ①T ②F ③F ④F ⑤F ⑥T ⑦T

問2. [1] 局所 [2] 動詞句内主語 [3] 指定部 [4] 数量詞
[5] 道具格

第14章 動く主要部

問1. ①T ②F ③F ④T ⑤F ⑥F ⑦F

問2. [1] 主要部移動 [2] VからTへの移動 [3] TからCへの移動
[4] 融合 [5] doの挿入 [6] 「さえ」「も」「は」

第15章 文頭に現れる語：Wh疑問詞と題目の移動

問1. ①F ②T ③T ④F ⑤F ⑥F ⑦T

問2. [1] Wh移動 [2] 演算子 [3] 長距離 [4] 島 [5] CP